

○質疑（三好委員） 留学生の受け入れについて質問させていただきたいと思いますが、その前に、先ほど施策マネジメントの実施状況について御説明いただきましたけれども、いろいろな御意見があると思いますが、私は、これは非常にわかりやすくいいと思っています。また有権者の方の意見も聞きながら、いろいろな提案をさせていただきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いたします。

留学生の受け入れ倍増についてでありますけれども、先ほどの施策マネジメントの実施状況についての資料の10ページにも書いてありますが、平成21年度に2,300人を受け入れたのですが、これを平成26年度には倍増の4,600人にするという成果目標に対して、今非常に厳しい状況だということでもあります。ここにも書いてある、大震災の影響であったり、円高の問題であったり、ここには書いてありませんが尖閣諸島問題から始まった感情の問題があったりして、特に中国などは応募人数自体が少なくなっているということもよく聞くわけであります。そんな中で、おくれた部分をしっかりと取り戻していただくために、具体的にどういう対策をこれから講じようとしているか、3つの観点でお聞かせいただきたいと思っております。

一つは、やはり倍増するということありますから、重点地域、中国を初め何カ国かありますけれども、日本に、広島に行ってみようという、こういう動機を多くの方に持っていただかないと、なかなか応募数が上がってこないわけであります。そこに向けてどういう取り組みをされているのか、パンフレットを作成する、もしくはキーパーソンを受け入れるというようなことも事業の中に入っておりますけれども、具体的にどう進んでいるのでしょうか。

2点目は、倍増しようと思っても、やはり専門学校や日本語学校、大学や大学院がそれぞれの枠をふやす、もしくは受け入れる学校自体が多くなっていかないと、物理的に入ってこられないわけあります。その辺は連携をとるといいながら実はお任せになっているのか、それとも、いろいろな連携がしっかりとられているのかという受け入れの物理的な部分です。

それから、なかなか出てこない話ではありますが、これは管轄が違うと言えば違うのですけれども、最後はやはり入国審査ということになっていきます。これは当然、国の外務省の話でありますので、どうこう言える話ではないのですけれども、やはりビザの更新や切りかえ、こういったことについて県がどういう取り組み、フォローをしているかということも、ある程度評価される部分があるだろうと思えますし、また支弁能力等については、他県ではアルバイトのあっせんをするなど、いかにして信用力を上げていくかということも実際やっていると聞いたりするわけです。そういった部分で、連携といますか、どのような協議をしているのかということ、これら3点の部分で、現状の取り組みと今後どういうふう考えられているかということをもまず教えてください。

○答弁（国際課長） この事業につきましては、海外人材の活用を通じて地域の活性化を図るという観点で、現在取り組んでおります。そういった観点でこの事業を進めようということで、平成21年に県内の主要な大学と経済団体、行政で研究会をつくりまして、留学生、県内企業、大学のそれぞれのニーズ調査、ヒアリング調査等を実施しまして、ニーズを踏まえてどういう事業を実施したらいいか、あるいはどういう体制づくりがいいかということを検討して取り組んでまいりました。2年以上かけて取り組んできたわけですが、そういうことを踏まえまして、昨年4月に広島県留生活躍支援センターを設立しました。当初は今言いましたような大学、経済団体等の38団体で発足しましたが、現在

39 団体ということで、ほとんどの大学に参加いただきまして、オール広島の取り組み体制を進めているところでございます。

先ほどお話のございました広島の受け入れ数をふやすということで、PR事業につきましては、広島の大学とか留学環境がほとんど知られていない状態でございますので、まず認知度を高めるということで、広島県留学ガイドというものを昨年作成し、それと同時に、PRのためのDVDをつくりました。留学を促進するための場として、日本学生支援機構が海外の都市で留学フェアというイベントを開催しておりますが、これに広島県が出店しまして、広島の大学あるいは留学環境について、先ほどのガイドあるいはDVDを配るなどしまして、PRしていくという取り組みを今行っております。今まで取り組んでいるのは、中国の北京、上海、それと韓国のソウル、釜山、ベトナムのハノイ、ホーチミンの6都市ですけれども、それぞれ1,000人を超える入場者がございまして、高校生、大学生等が参加されますので、そこで今申しましたようなものを配り、PRしています。これまで首都圏等の国立大学とか主要な私立大学は出店しておられるのですけれども、県内の私立大学はほとんど、単独で出るということはありませんでした。やはりコストパフォーマンスの面から非常に難しいので、それをオール広島として、県として設定して、地域としてPRする。これは全国で初めて主体としてやっているところでございます。

キーパーソンにつきましては、平成21年度、平成22年度と中国の四川省の四川大学、あるいは四川外語学院からキーパーソンを受け入れ、日本に留学するときの情報をいろいろ発信したり、サポートされている方の中から責任者の方を受け入れて、広島の事情を知っていただく、そういう情報発信拠点という位置づけで受け入れをしております。

平成21年度、四川外語学院には県内の大学と交流、意見交換をしていただいたのですが、翌年に福山大学と提携を結んで、一昨年、昨年と福山大学で10人の留学生を受け入れるという流れもできております。それと今年度、ベトナムと韓国から、先ほども言いましたようなキーパーソンを3名ずつ受け入れておりまして、県内の大学との意見交換でありますとか、支援体制を視察していただくという取り組みを行っております。

それと、受け入れを促進するには、やはり来ていただいた方に満足して帰っていただくということで、個別に日本語学習の支援、それと就職の仕方がわからないという学生が多いので、そういったことを勉強する場として就職セミナーの入門編と実践編というものを設けておりまして、企業と留学生の出会いの場として、昨年は合同説明会を2回実施しております。1回目には約130名の留学生が参加し、企業も38社参加していただいて、現在までに13人の留学生が9社に内定しているという状況でございます。その一方で、企業の掘り起こしということも必要ですので、留学生活用セミナーというものを県内企業の方々を対象に開催しております。

入管等の問題でございますけれども、昨年暮れに開催しました2回目の留学生活用セミナーには、入管の審査官の方にも参加いただきまして、留学生の審査に関するいろいろな情報提供、留意事項も御説明いただいております。また、国際センターのほうで外国人の相談窓口を設けておりますけれども、入管の方にも御協力いただきながら、専門相談としてビザに関する相談にも乗っているという形で、連携を深めているところでございます。

また、県内の大学との連携につきましては、留学生活躍支援センターにおいて毎年、事業連携委員会という連携の場を持ってありますし、年に3回ほど全構成団体の方に集まっていただく意見交換の場を

持ちながら連携を深めているところでございます。今後、こういう形の取り組みを通じて、目標達成に向けて頑張っていきたいと思っています。

○質疑（三好委員） 大学の受け入れの数の問題等もあるのですが、また個別に聞かせていただきます。先ほどキーパーソンの話が出ましたけれども、どういう方で、どういう影響力があるかという点についても御説明いただきたいのですが、いろいろな話を聞く中で、実際に現地で募集をする場合は公的な機関であったり、また民間の機関、送り出し機関というものがある、そこで日本にきたいという学生の方を集めて、手続も含めていろいろと支援していくということが行われていると聞きます。東京や大阪に行きたいという学生たちを広島に誘導するためには、それぞれの日本語学校や専門学校などは大分高い手数料なども払っているということも実際聞いたりするのですが、こういうことに左右されるのではなくて、やはり正面から広島に来てみたい、広島で勉強したい、また広島に行くと将来が見えるいい支援体制があるということがきちんと伝わるのが大切であって、それが意義のある事業だろうと思っていますが、そうした中で一つ御提案と御意見をお聞きします。今はキーパーソンというところでとまっていると思うのですが、その向こう側に、やはり今まで留学をされた実績校があると思います。一度留学生を輩出している学校であれば、いろいろな情報も入っていくでしょうし、2回目、3回目と来てもらう可能性も高いと思います。また、支弁能力等も優秀な学生を集めるにはいいのではないかと思います。そういった意味で、過去の留学生たちがどういう学校から入ってきているのかについて、データがきちんと管理されているのかどうか。また、それによって全体的な網をかけるのではなくて、キーパーソンを利用してその向こう側にある高校などにきちんと個別に対応して、太いパイプを引いていくというのは、実は長い目で見たらいい結果になるのではないかと思います。その辺の状況と御意見をお聞かせいただきたいと思っています。

○答弁（国際課長） キーパーソンに関しましては、韓国では、先ほど御説明しました留学フェアの共催団体、日本に留学したい方が問い合わせをするような窓口団体、あるいは大学から受け入れをしております。例えば、韓日協会とか、釜山の韓日交流センターというところの事務局長、理事長あたりと協力していますが、こういった方々は日ごろからつき合いがあるということで、どういう大学あるいは高校から来ているかという情報もお持ちでございます。また、いろいろな団体とか大学を含めて、会員が今120～130ぐらいおられますので、こういう方々の力をかりながら、広島の強みとか魅力の部分をガイドの形でお送りして配っていただく、あるいは実際に韓国から広島に来て留学を体験された方の体験談をメルマガで配信するというを行っております。新年度は留学生にも編集にかかわっていただきまして、より効果的に広島の魅力が伝わるような情報発信の仕方を考えておりまして、キーパーソンの方々と一緒に発信していこうと考えております。

それと、どこの国から来ているかという点については正確に把握できておりますけれども、現段階でどこの国のどの地域のどの学校から留学生が来られているかというところまでは把握できておりません。ただし、どういった大学に効果的にアピールしていったらいいのかということに関しましては、新年度はオン・キャンパスPRということで、いわゆるフェアにただ出るだけではなくて、特にここの大学あるいは高校に行ってPRをすれば、広島の高校や大学と連携しやすい、そういった交流可能性の高い高校や大学をキーパーソンの方にも御紹介いただきながら、そういった情報を県内の大学に提供し、より

効果的なPRに取り組んでいきたいと思っています。

○要望（三好委員） 今の最後の話は大変重要だと思いますので、また取り組み状況を教えていただきたいと思っています。